

「不妊に悩む方への特定治療支援事業等の あり方に関する検討会」

報告書

参考資料

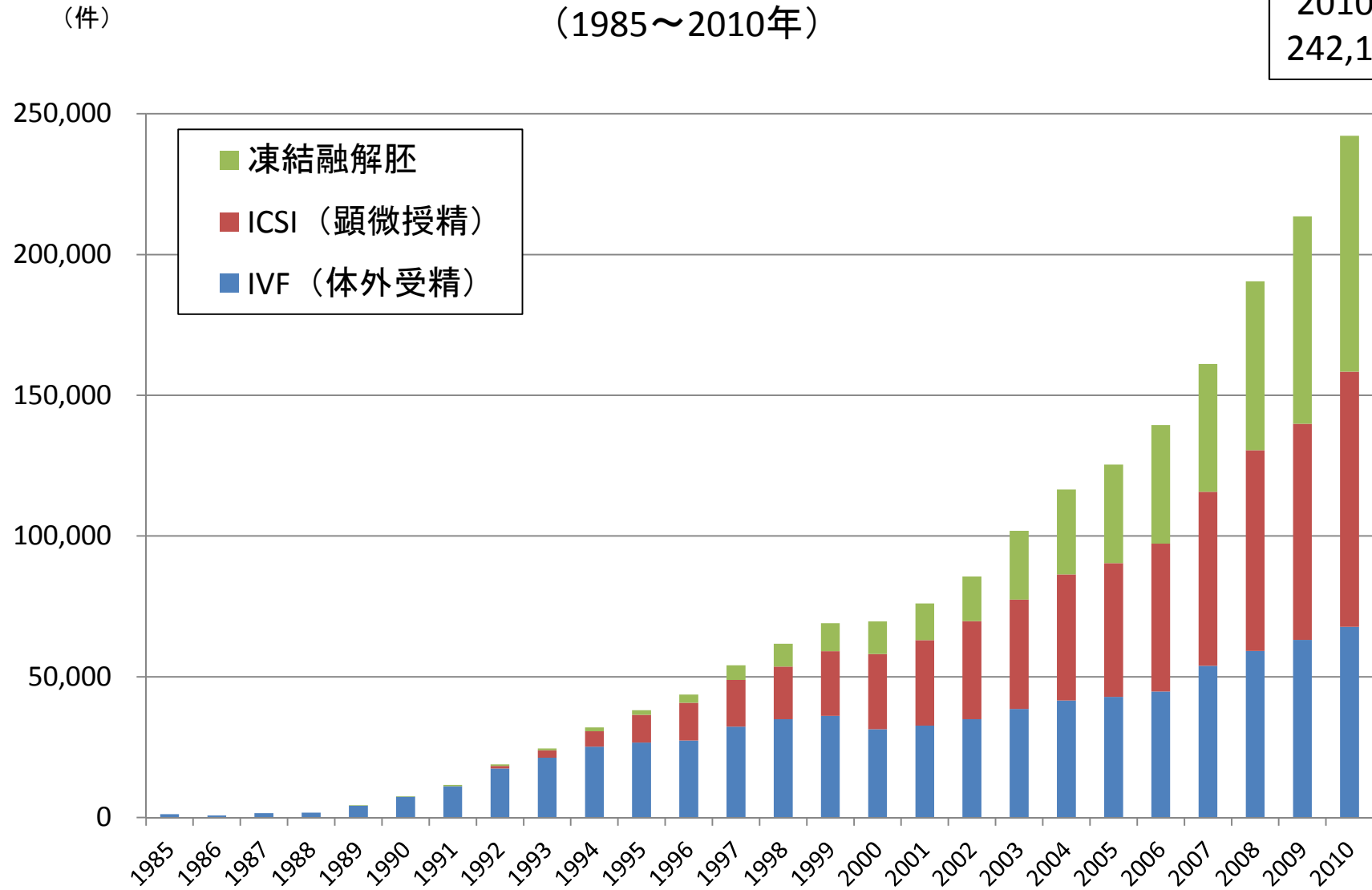
目 次

- 1 不妊治療の実施件数の年次推移
- 2 特定治療支援事業の助成件数の年次推移
- 3 年齢5歳階級別の助成件数
- 4 通算回数別の助成者数
- 5 体外受精実施件数別の施設数
- 6 都道府県別の生殖医療専門医数
- 7 年齢別の特定治療支援事業の助成件数
- 8 母の年齢と自然流産率
- 9 年齢別にみた周産期死亡率
- 10 年齢別にみた妊産婦死亡率
- 11 年齢別にみた妊娠高血圧症候群の発症頻度
- 12 妊娠高血圧症候群の年齢別のリスク比
- 13 年齢別にみた前置胎盤の発症頻度
- 14 女性の年齢と子どもの染色体異常の頻度
- 15 不妊治療における年齢と流産率
- 16 不妊治療における年齢と生産分娩率
- 17 全妊娠・全出産あたりの累積妊娠率・累積分娩率
- 18 年齢別にみた累積分娩率

1 不妊治療の実施件数の年次推移

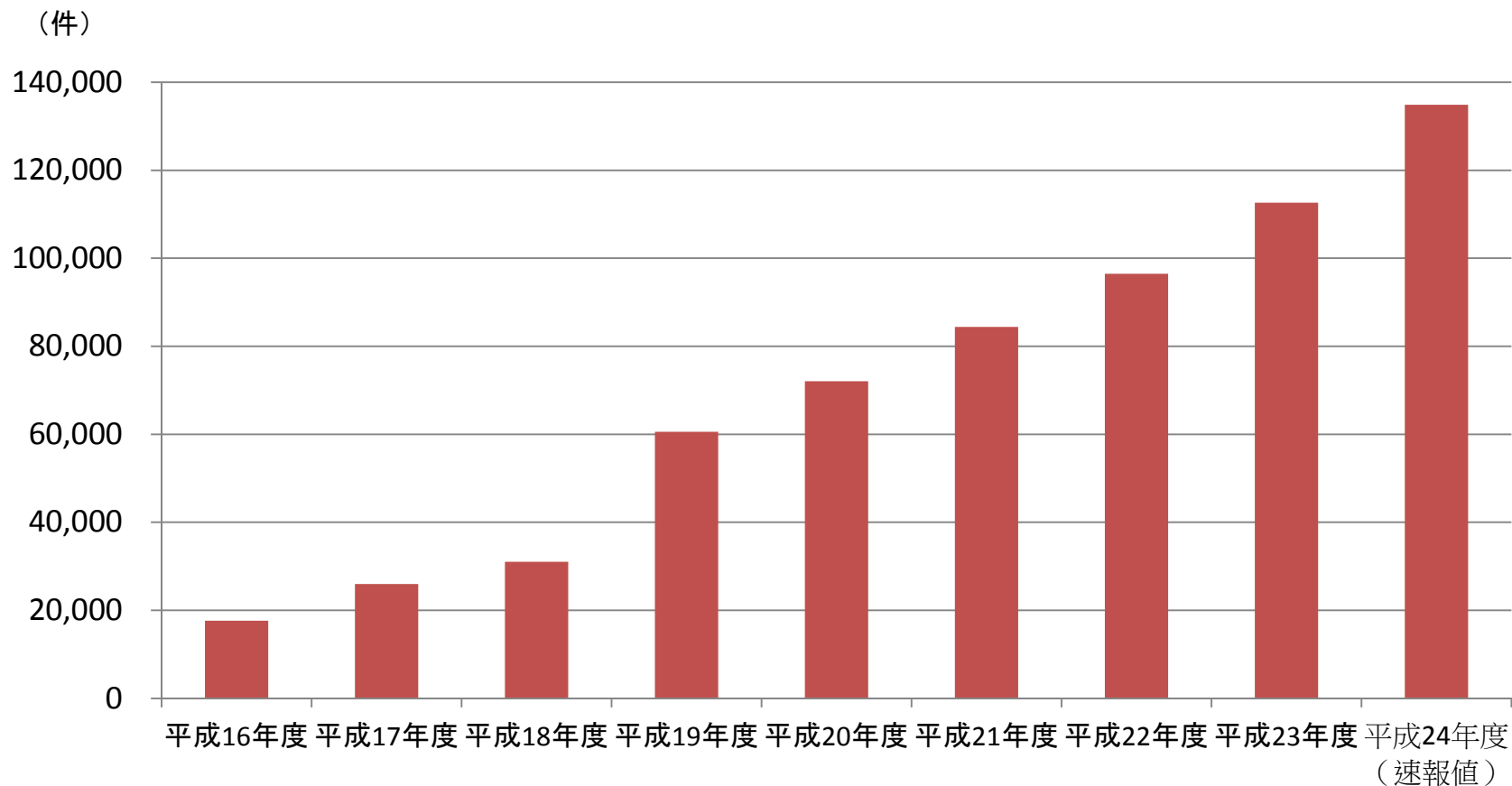
(1985～2010年)

2010年
242,161



2 特定治療支援事業の助成件数の年次推移

(平成16～平成24年度(速報値*))

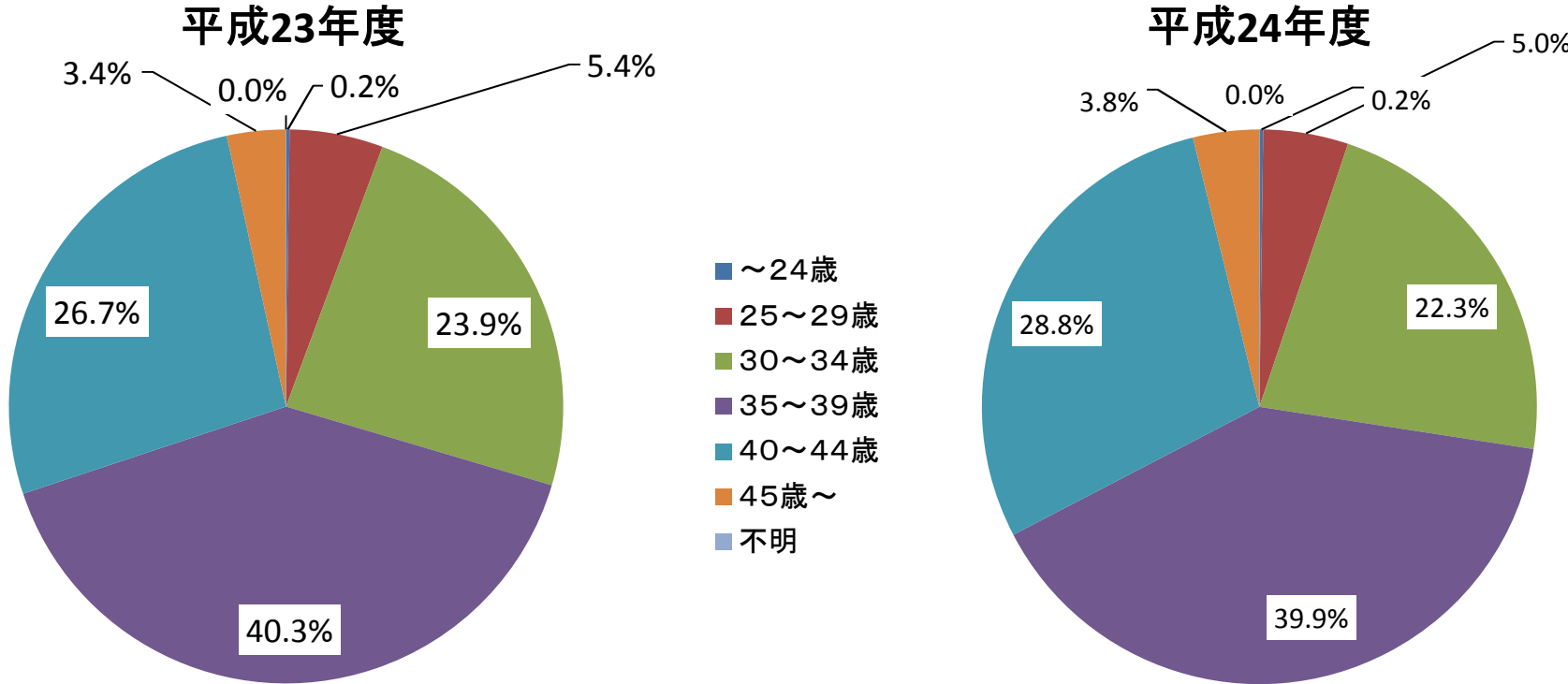


助成年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(速報値)
助成延件数	17,657	25,987	31,048	60,536	72,029	84,395	96,458	112,642	134,881

* 平成25年6月28日時点の暫定的な集計を行ったもの。

3 年齢5歳階級別の助成件数

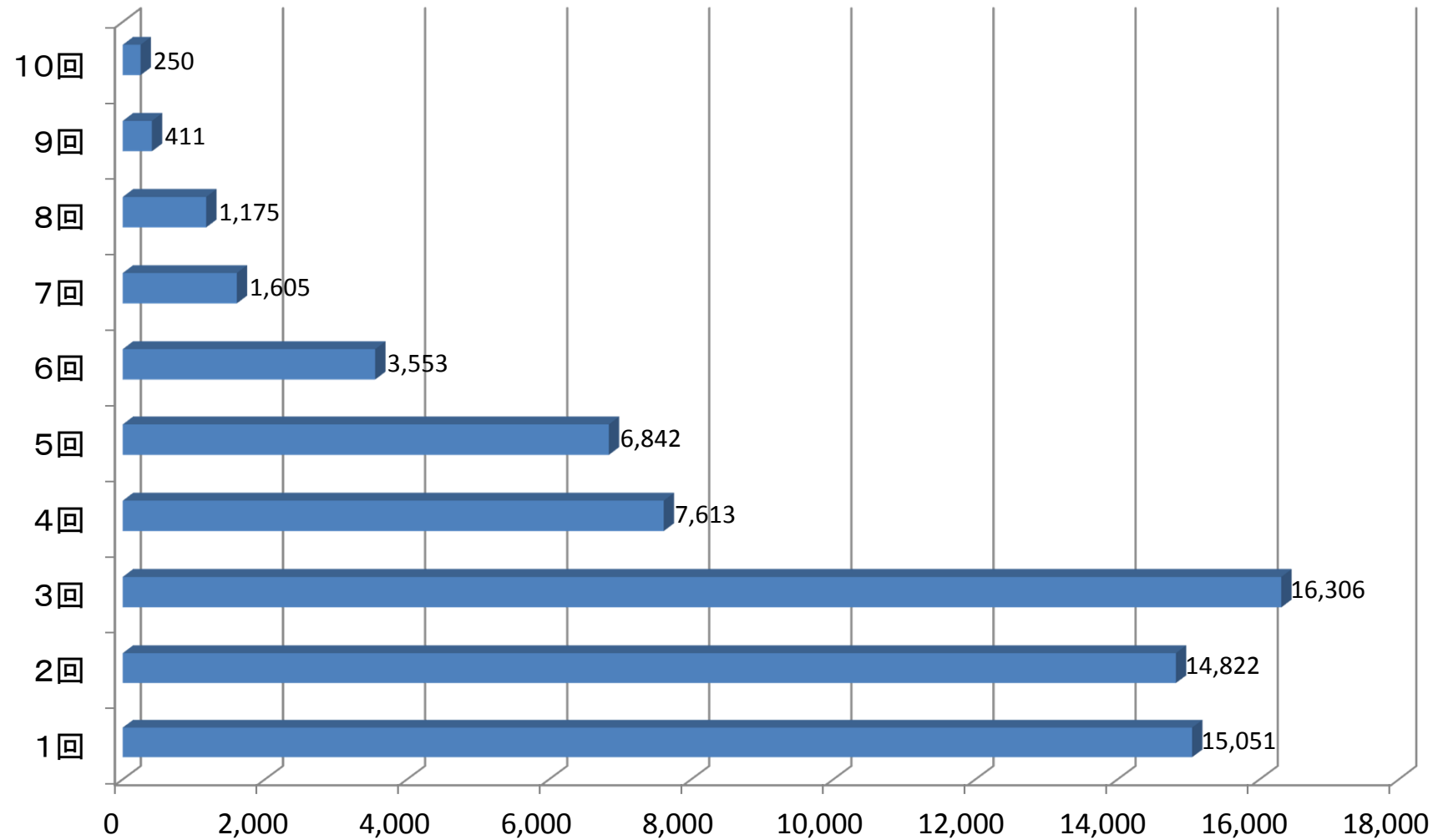
(平成23年度及び平成24年度(速報値*))



* 平成25年6月28日時点において報告のあった100自治体について集計を行ったもの。

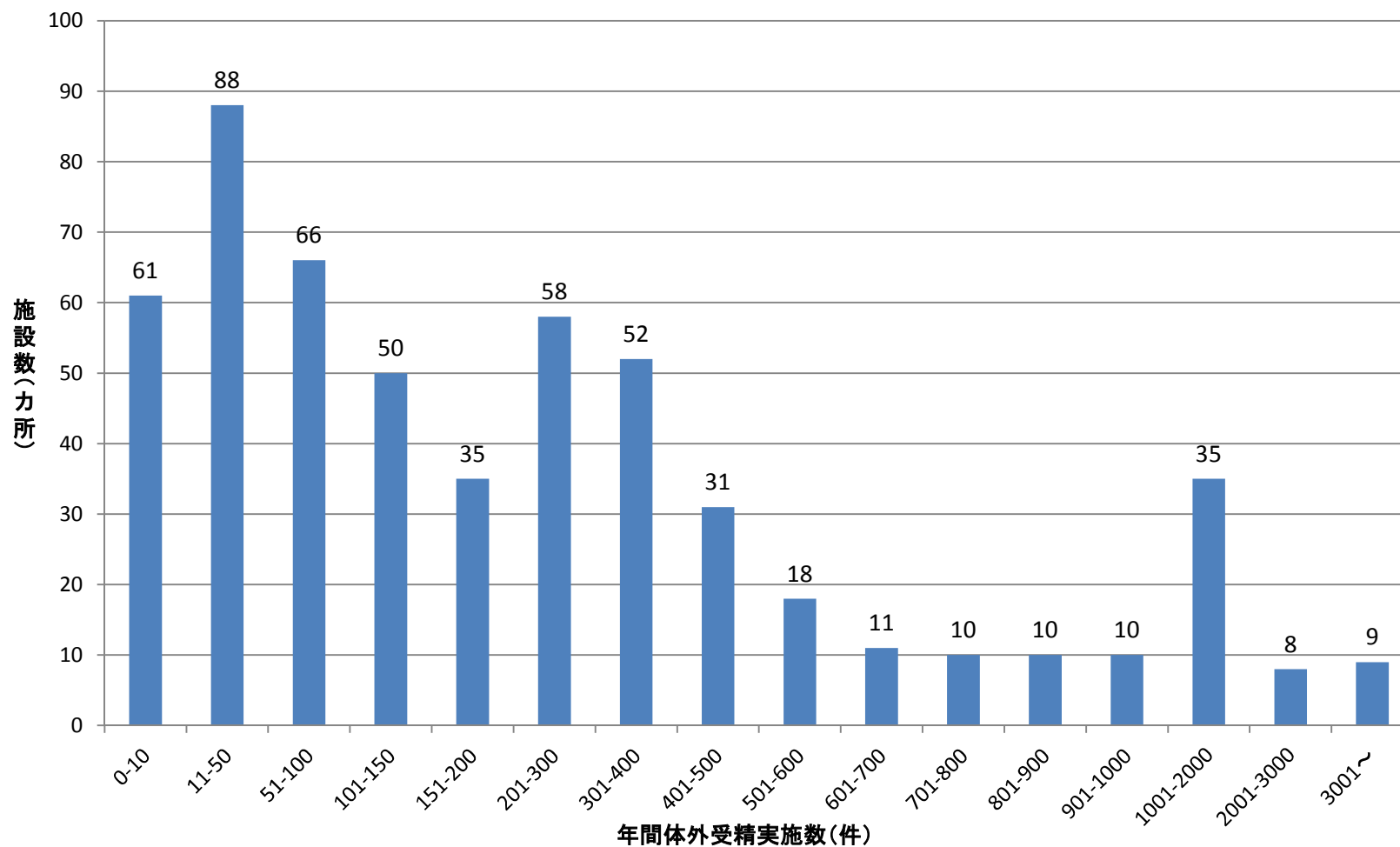
4 通算回数別の助成者数

(平成24年度実績(速報値*))



* 平成25年6月28日時点において報告のあった100自治体について集計を行ったもの。

5 体外受精実施件数別の施設数* (2010年実績)

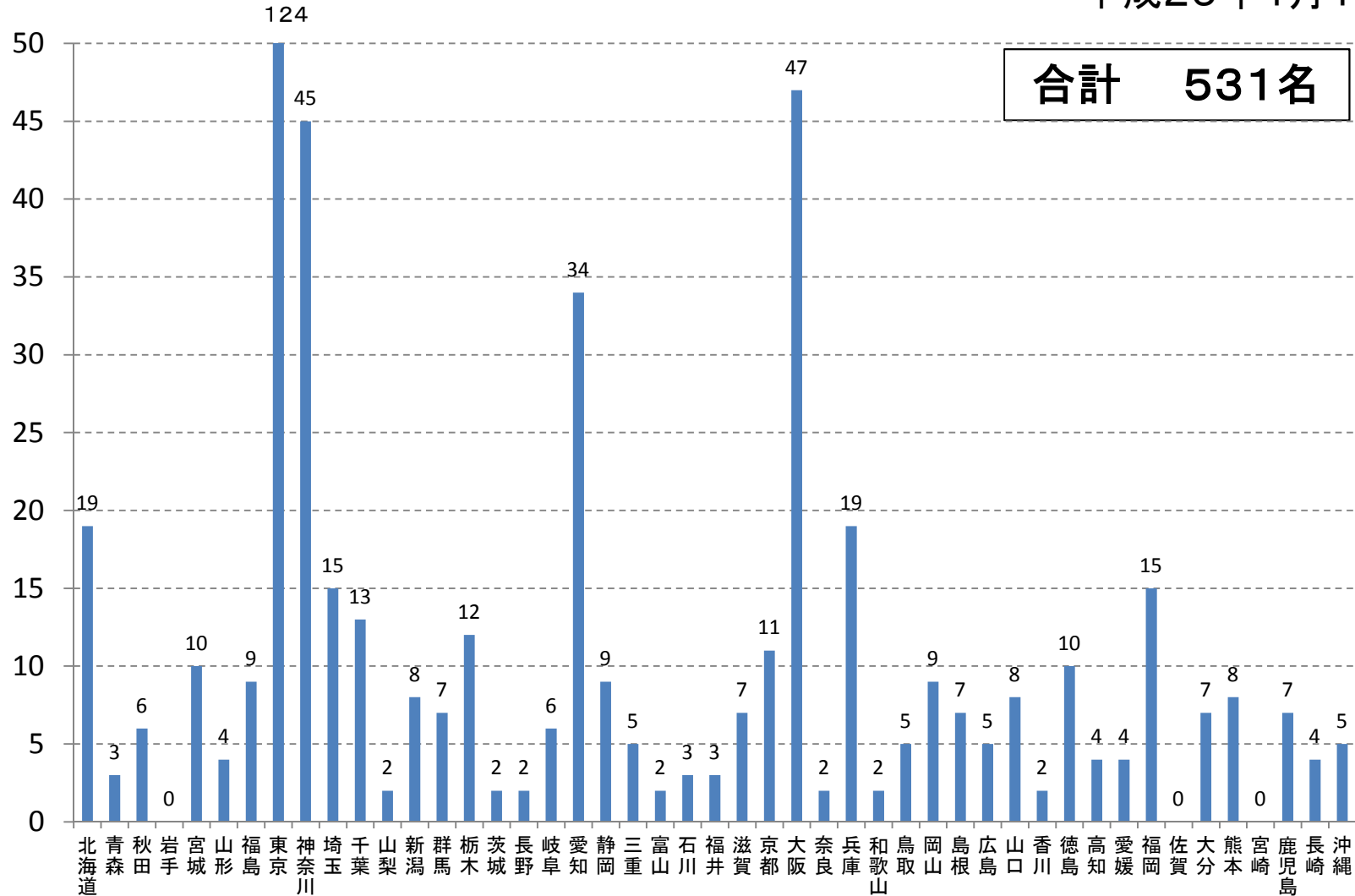


* : 日本産科婦人科学会 登録施設: 552施設

6 都道府県別の生殖医療専門医数

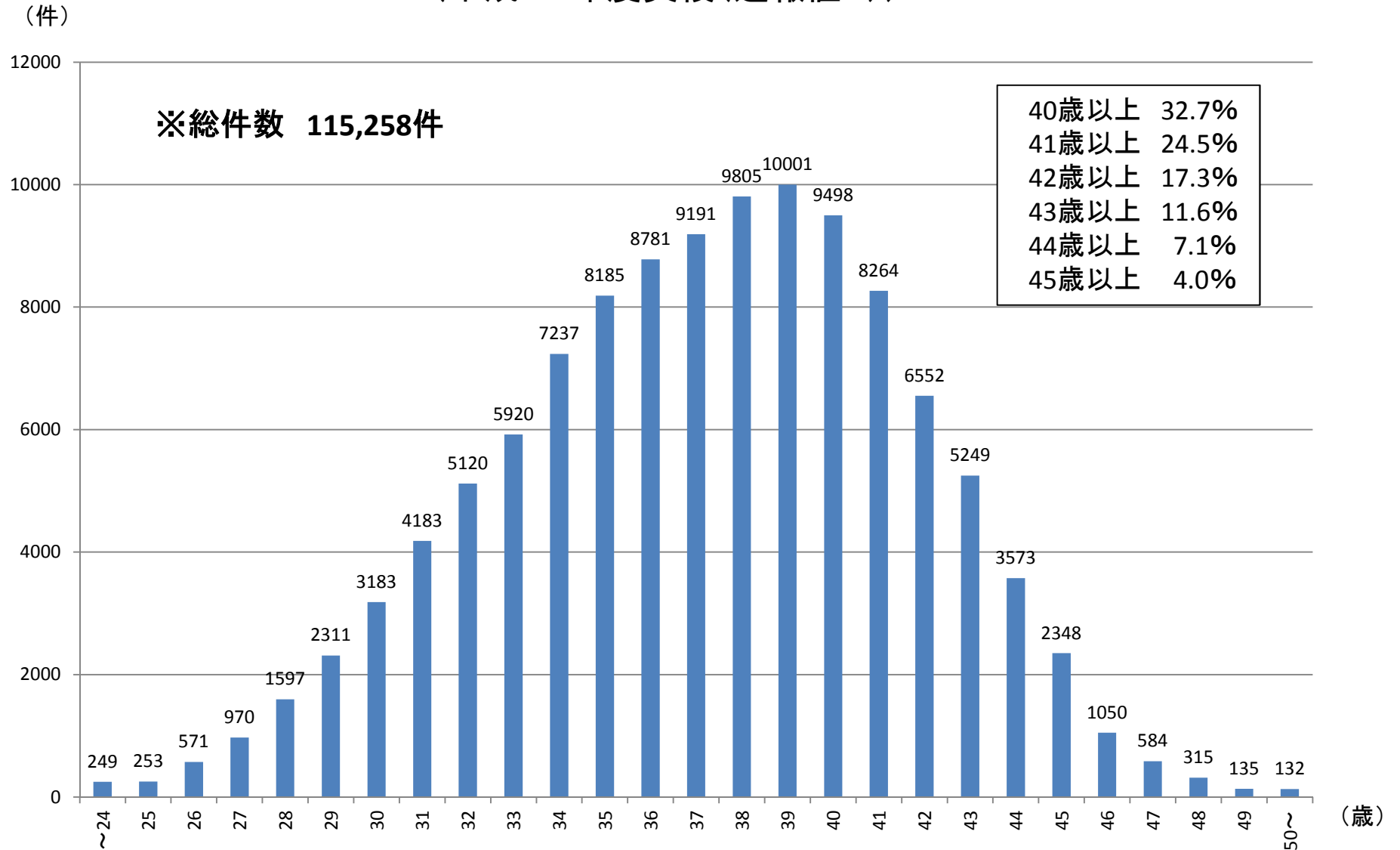
(人)

平成25年4月1日時点



7 年齢別の特定治療支援事業の助成件数

(平成24年度実績(速報値*))



* 平成25年6月28日時点において報告のあった100自治体について集計を行ったもの。

8 母の年齢と自然流産率

年齢区分	妊娠例数	自然流産例数	自然流産率(%)
24歳以下	90	15	16.7
25～29歳	673	74	11.0
30～34歳	651	65	10.0
35～39歳	261	54	20.7*
40歳以上	92	38	41.3*
合計	1,767	246	13.9

* 25～29、30～34歳の群と比較して有意差あり(p<0.01)

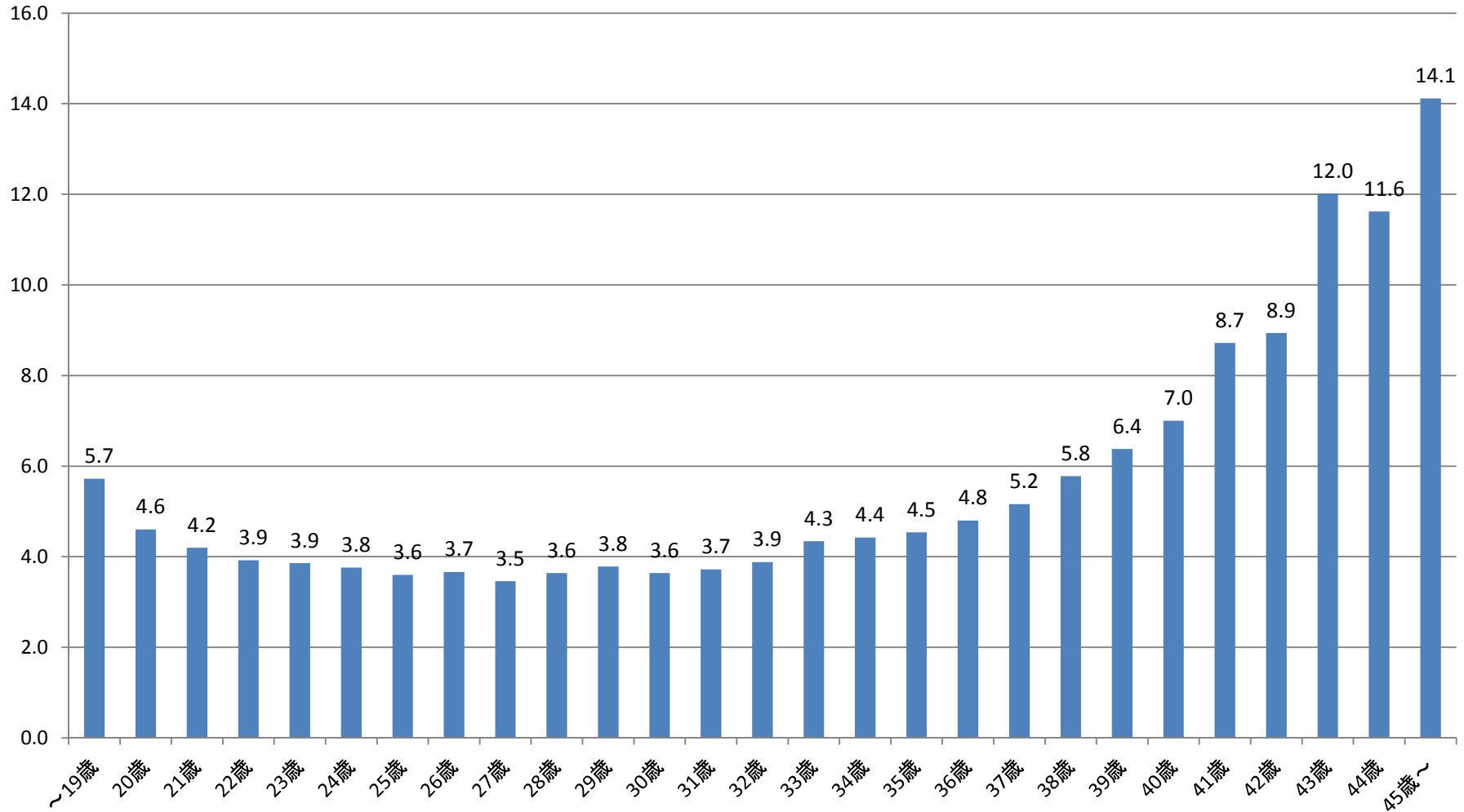
資料: 虎ノ門病院産婦人科 1989.1.～1991.7.データ

母体年齢と流産 周産期医学 vol. 21 no. 12, 1991-12

9 年齢別にみた周産期死亡率(出産千対)

(平成19-23年の平均値)

(件数/出産千対)



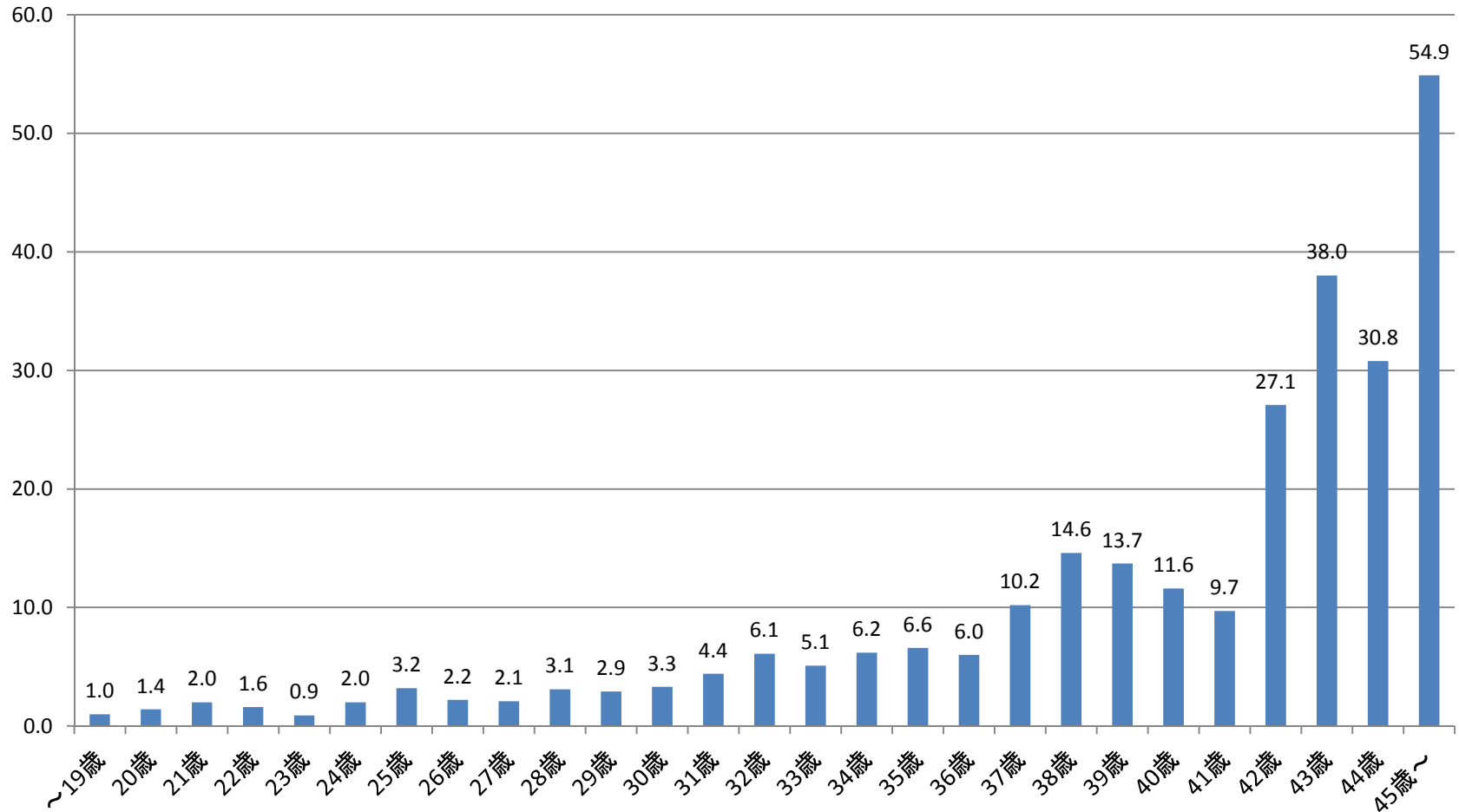
注: 1) 周産期死亡率は、1年間の周産期死亡数(妊娠満22週以後の死産数+早期新生児死亡数(生後1週間未満の死亡数))を1年間の出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)で割ったもの(出産千対)である。

(厚生労働省人口動態統計の特別集計を元に母子保健課にて作成)

10 年齢別にみた妊産婦死亡率(出産十萬対)

(平成14-23年の10年間の累計)

(件/出産十萬対)

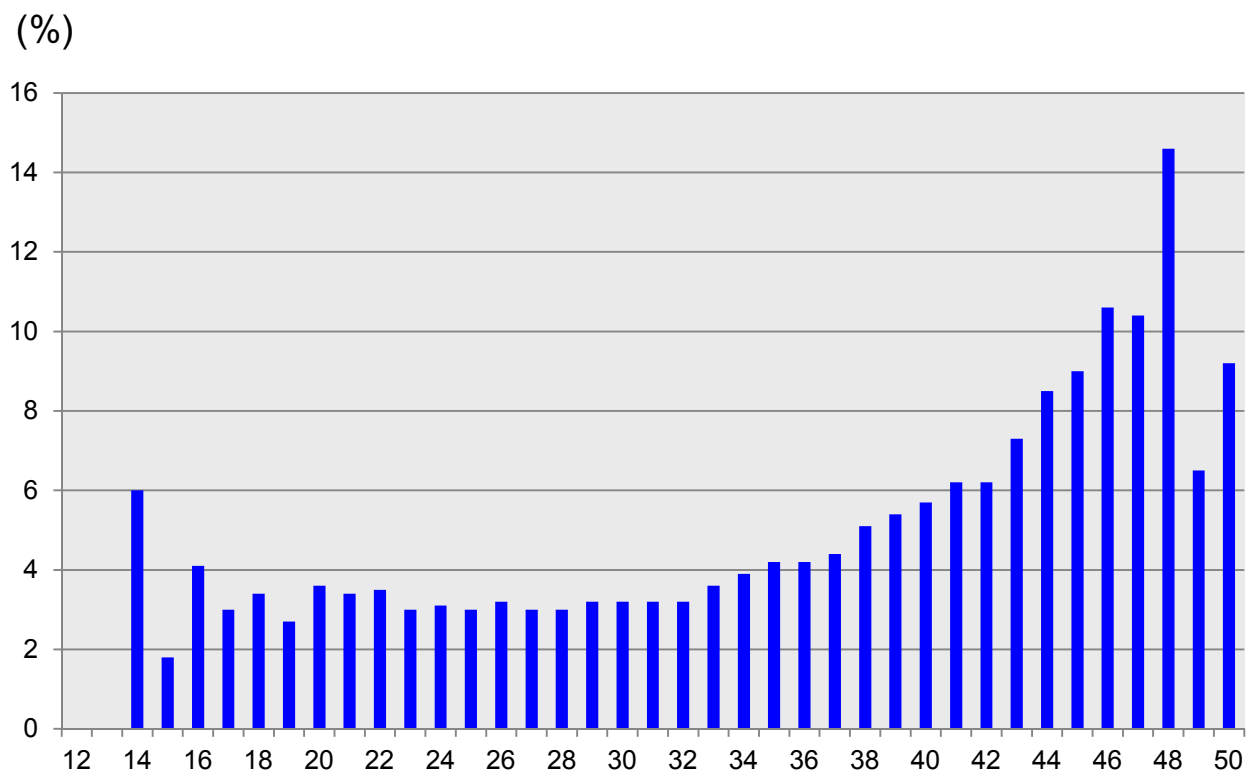


- 注: 1) 妊産婦死亡は、妊娠中又は妊娠終了後満42日未満の死亡で、妊娠の期間及び部位には関係しないが、妊娠もしくはその管理に関連した又はそれらによって悪化したすべての原因によるものをいう。ただし、不慮又は偶発の原因によるものを除く。
2) 妊産婦死亡率は、年間妊産婦死亡数の累計(平成14~23年)を年間出産数(出生数+妊娠満12週以後の死産数)の累計(平成14~23年)で割ったもの(出産十萬対)である。

(厚生労働省人口動態統計の特別集計を元に母子保健課にて作成)

11 年齢別にみた妊娠高血圧症候群の発症頻度

(n=21,262)



妊娠高血圧症候群は加齢に伴い増加し、
特に40歳を超えると急激に増加する傾向にある

12 妊娠高血圧症候群の年齢別のリスク比

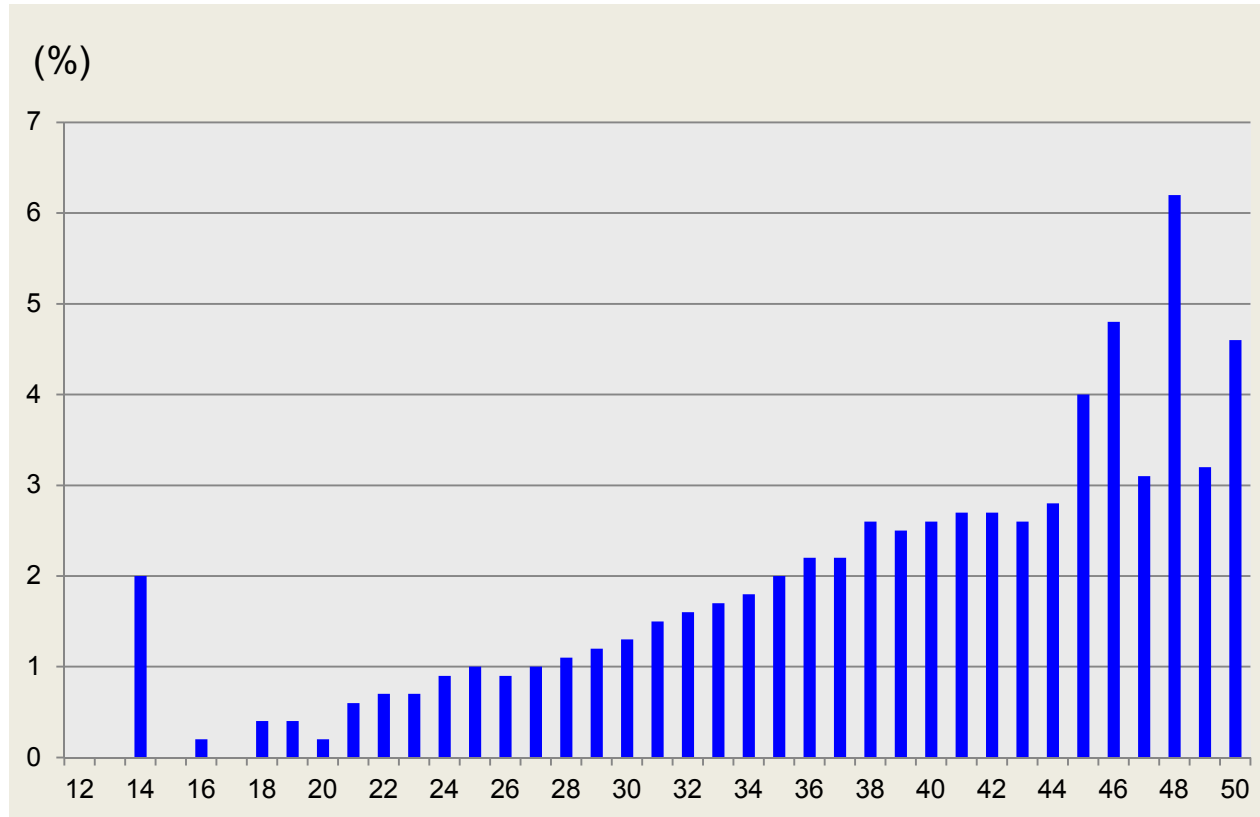
(2001～2010年)

30歳を相対リスク1とした場合

年齢	症例数	相対リスク	95% 信頼区間
39	15,106	1.65	1.15-2.15
40	10,847	1.72	1.18-2.26
41	7,212	1.86	1.32-2.38
42	4,281	1.86	1.32-2.49
43	2,381	2.18	1.41-2.97
44	1,158	2.56	1.64-3.52
45	480	2.68	1.72-3.69

13 年齢別にみた前置胎盤の発症頻度

(n=8,876)



前置胎盤は加齢に伴い増加する傾向にある

14 女性の年齢と子どもの染色体異常の頻度

女性の年齢	ダウン症の子が生まれる頻度		何らかの染色体異常をもつ子が生まれる頻度	
	出生千対		出生千対	
20	1667人に1人	0.6	526人に1人	1.9
25	1250人に1人	0.8	476人に1人	2.1
30	952人に1人	1.1	384人に1人	2.6
31	909人に1人	1.1	384人に1人	2.6
32	769人に1人	1.3	323人に1人	3.1
33	625人に1人	1.6	286人に1人	3.5
34	500人に1人	2.0	238人に1人	4.2
35	385人に1人	2.6	192人に1人	5.2
36	294人に1人	3.4	156人に1人	6.4
37	227人に1人	4.4	127人に1人	7.9
38	175人に1人	5.7	102人に1人	9.8
39	137人に1人	7.3	83人に1人	12.0
40	106人に1人	9.4	66人に1人	15.2
41	82人に1人	12.2	53人に1人	18.9
42	64人に1人	15.6	42人に1人	23.8
43	50人に1人	20.0	33人に1人	30.3
44	38人に1人	26.3	26人に1人	38.5
45	30人に1人	33.3	21人に1人	47.6
46	23人に1人	43.5	16人に1人	62.5
47	18人に1人	55.6	13人に1人	76.9
48	14人に1人	71.4	10人に1人	100.0
49	11人に1人	90.9	8人に1人	125.0

資料 : Hook EB (Obstetrics and Gynecology 58:282-285, 1981)

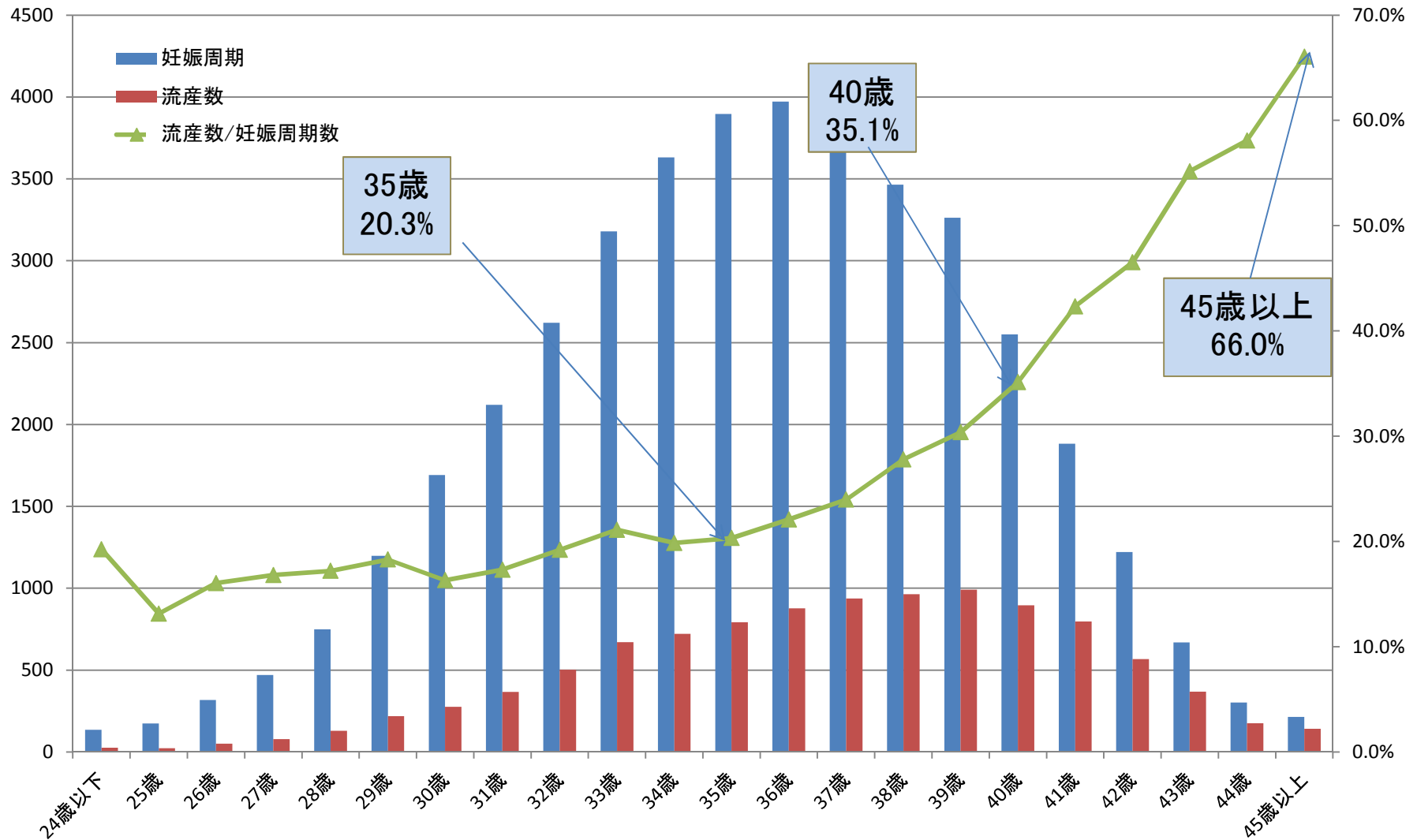
Hook EB, Cross PK, Schreinemachers DM (Journal of the American Medical Association 249(15):2034-2038, 1983)
を元に母子保健課にて作成

15 不妊治療における年齢と流産率

妊娠周期数・流産数(件)

(流産数／妊娠周期数)

流産率



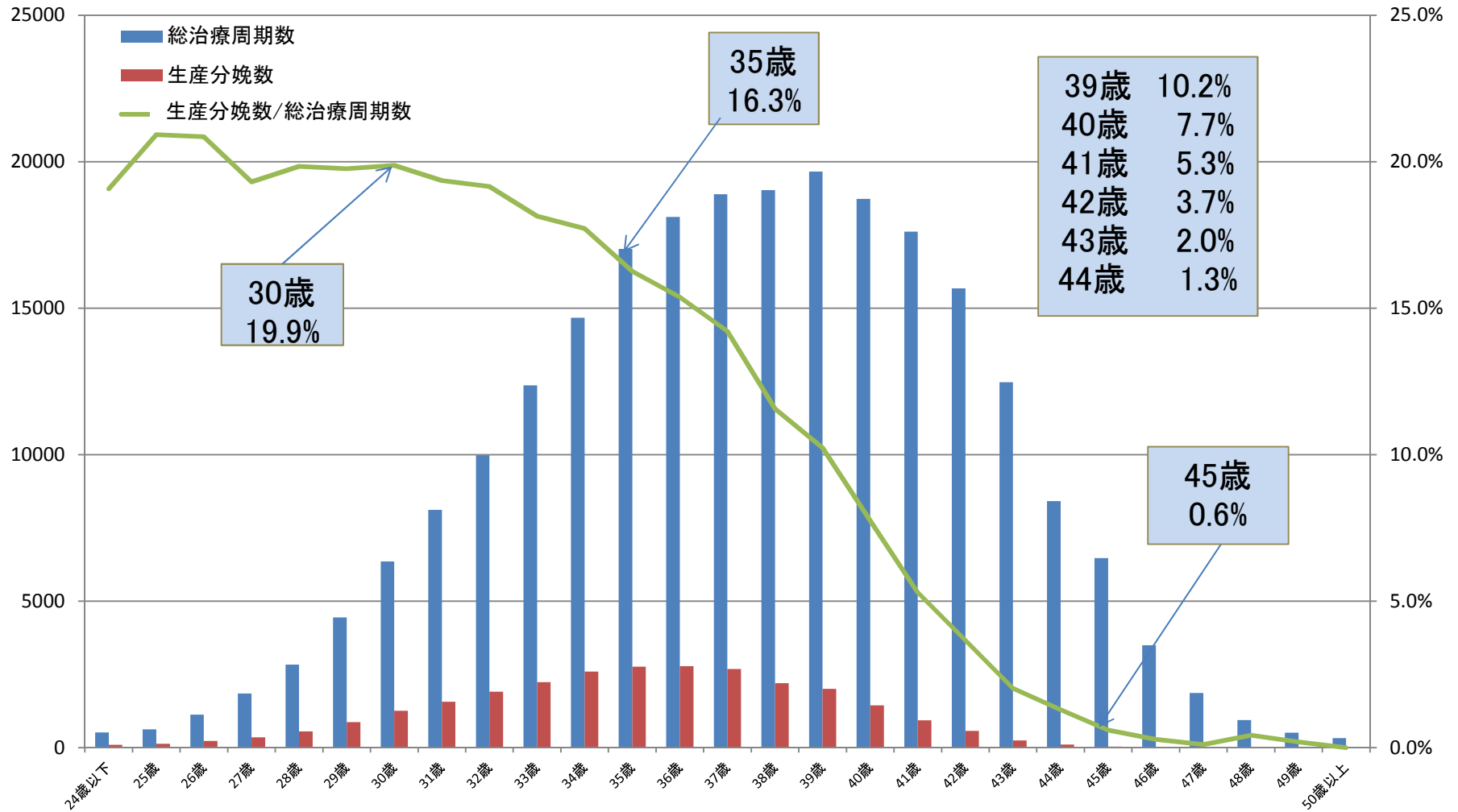
日本産科婦人科学会2010年データを基に厚生労働省で作成

16 不妊治療における年齢と生産分娩率

(生産分娩数／総治療周期数)

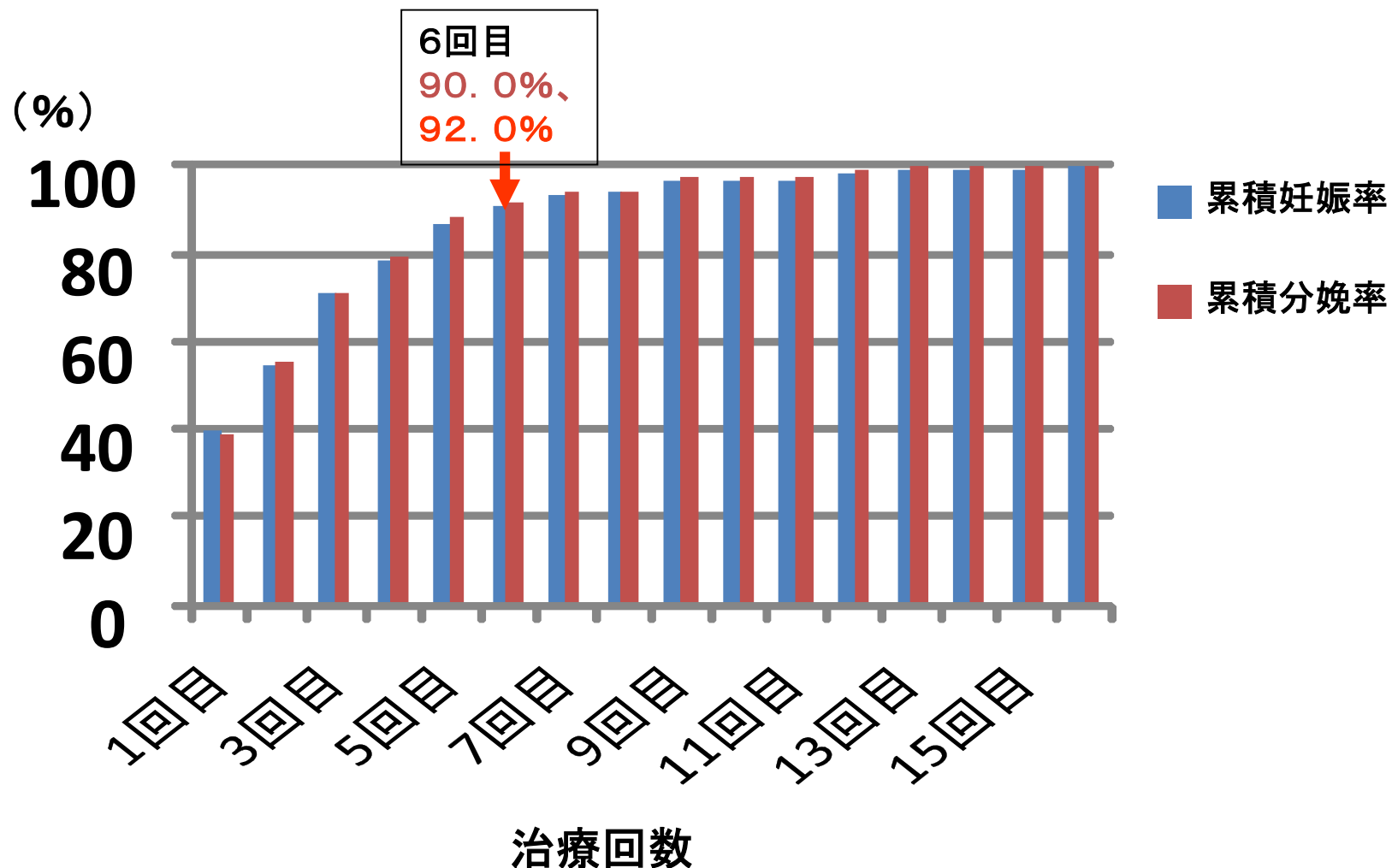
総治療周期数・生産分娩数(件)

生産分娩率



日本産科婦人科学会2010年データを基に厚生労働省で作成

17 全妊娠・全出産あたりの累積妊娠率・累積分娩率



(国立成育医療研究センターのデータ)

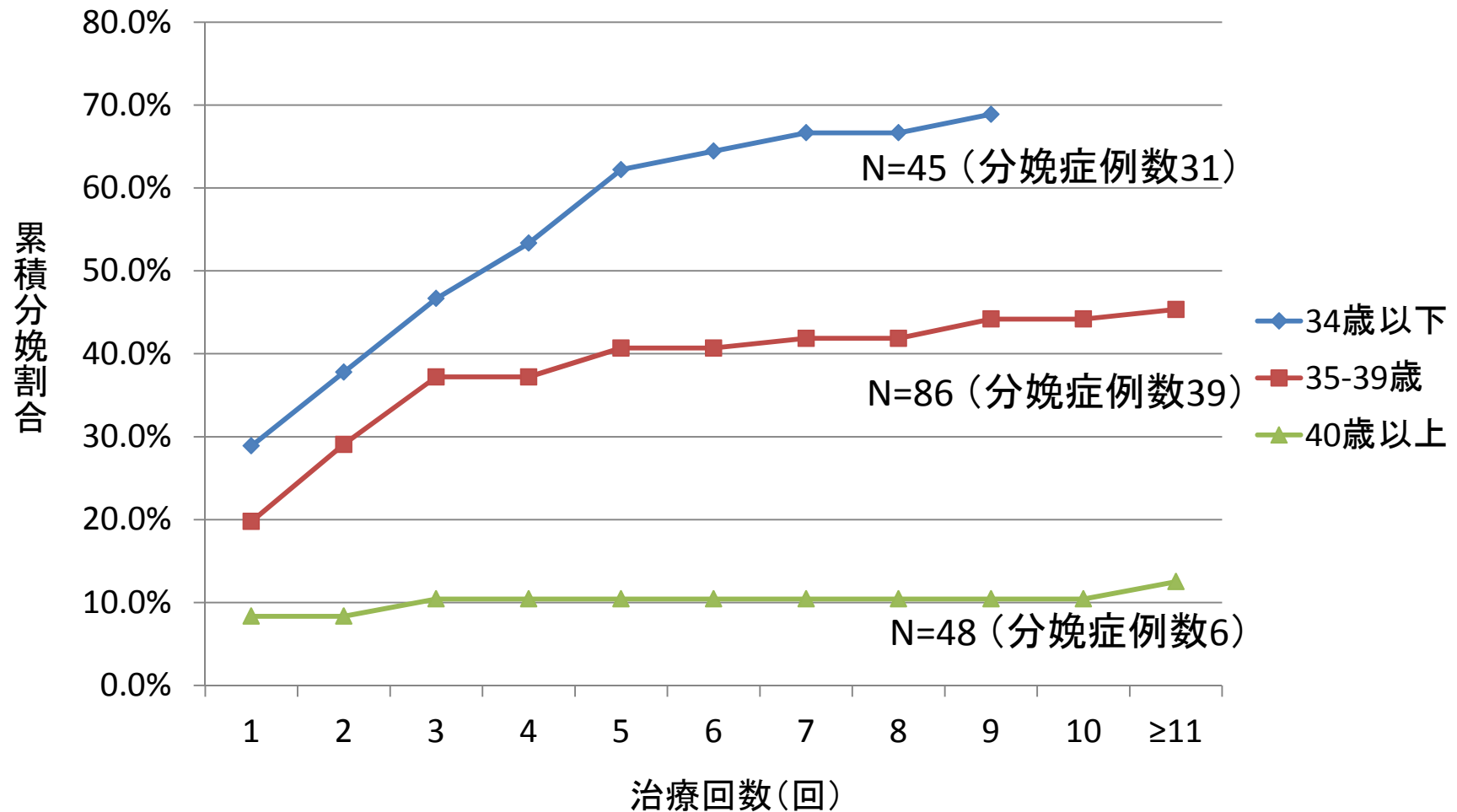
2006-2008年に初めてART治療を開始した症例の治療結果より

累積妊娠率・累積分娩率: 不妊治療を数回行った場合の妊娠もしくは分娩に至った割合

分子: 当該回数までに妊娠・分娩に至った数

分母: 妊娠・分娩に至った総数

18 年齢別にみた累積分娩率



(国立成育医療研究センターのデータ)

2006-2008年に初めてART治療を開始した179症例の5年間の治療結果より

累積妊娠率・累積分娩率: 1組のカップルが、不妊治療を数回行った場合の分娩に至った割合

分子: 当該回数までに分娩に至った数

分母: 分娩に至った総数

注: 分母には、途中で治療を中止した症例も含む。